

2024年1月24日（水）

障がい者虐待防止研修

～本質的な支援をしていれば虐待は起こらない～

東洋大学福祉社会デザイン学部 高山 直樹

障がいのある人への支援の仕事の 喜び・誇り・やりがい

- 皆さんの「支援者」としての働きの**喜び・誇り・やりがい**はどこにあるでしょうか？
- 皆さんの支援は、誰を、何を対象とし、その**目標**は何でしょうか？
- 皆さんの支援の**よりどころ**はどこにありますか？

皆さんの仕事は、ヒューマンサービス
SWの価値と倫理に基づいた知識・技術の提供

カレル・ヴァン・ウォルフレン著、篠原勝訳

『人間を幸福にしない日本というシステム』毎日新聞社、1994年、25～26頁

『日本の市民はたいてい、何かにつけ、このリアリティにはまり込んで動けなくなっていると感じている。表向きのリアリティが、管理されたつくりものに過ぎない、と時々気づくが、結局はそれを受け入れざるをえない。なぜなら、周りの世界はすべてそれによって動いているからだ。日本人がこうした状況にはまりこんだ時、口をついて出るセリフが「シカタガナイ」である。

「シカタガナイ」というのは、ある政治的主張の表明だ。おそらくほとんどの日本人はこんなふうに考えたことはないだろう。しかし、この言葉の使われ方には、確かに重大な政治的意味がある。シカタガナイと言うたびに、あなたは、あなたが口にしていてる変革の試みは何であれすべて失敗に終わる、と言っている。つまりあなたは、変革をもたらそうとする試みはいっさい実を結ばないと考えたほうがいいと、他人に勧めている。

「この状況は正しくない、しかし受け入れざるをえない」と思うたびに「シカタガナイ」と言う人は、政治的な無力感を社会に広めていることになる』

『そうはいっても』

支援は価値の具現化

- 価値とは、個人が持っている価値観ではなく、福祉専門職が持たなければならない価値
- 価値とは、人間に対する見方（人間観）、社会の目指すべきあり方（社会観）
- 人間観：人間の尊厳、権利擁護、可能性がある存在、ストレングス、意思決定等
- 社会観：多様性の尊重、インクルージョン、平等、共生、ノーマライゼーション等
- 価値の意識化と実践そして説明責任
- 仲良しグループからチームとしてのぶれない実践

しかたがない、そうはいつでも、からの脱却

「シカタガナイ」

- ・マンパワーが足りないから
- ・社会資源が足りないから
- ・障がいが重いから、高齢だから
- ・家族が言うから、決めているから
- ・法律や制度で決まっているから

バーンアウト
ストレス・退職

利用者の力を奪う
職員の喜びを奪う
組織の改革を奪う

事故

職員間に信頼
がない・人が
集まらない

虐待

わが国の福祉構造の問題①

社会的弱者を再生産しているのではないか

- **みなし契約（形式的）、本人不在**
- サービスメニューの数は世界一、しかしメニューに利用者を当てはめる福祉
- 踏襲された仕事を、こなしていく、管理していく日課主義
- ○○福祉法に、権利性はなく、各事業ごとの運営に関する基準（最低基準）に具体的なサービスが規定されている
- 利用者、家族、行政、職員、住民、法人
- **苦情解決制度**、第三者委員、運営適正化委員会、行政監査の課題

わが国の福祉構造の問題②

- 利用者の自立より、適応が目的、不適応は問題行動、困難事例
- 提供しているサービス、プログラム、作業の意味を説明することができない（説明責任を果たせていない）
- 個別支援計画、サービス等利用計画は職員の視点
- 上記計画をすべての支援者は意識しているか
- **そもそも誰かから計画を立てられたいか**

津久井やまゆり園の事件

2016年7月26日午前2時頃、神奈川県指定管理施設である津久井やまゆり園において、同園の元職員が施設のガラスを割って侵入し、施設の利用者男女が刺され、男女19人が死亡、男女27人が負傷した。

「意思疎通のできない人を刃物で刺した」

「重複障害者は生きていくのは不幸だ」

「**生産**に携われないことは生きる**価値**がない」

「抹殺することが救済」

「施設に勤めなければ思いつかなかったと思います。彼らと接する中で、徐々に必要ないと思っていきました。」

報道の匿名、入所施設のあり方、意思決定、優生思想、内なる差別

令和3年度 都道府県・市区町村における障害者虐待事例への対応状況等(調査結果)

○平成24年10月1日に障害者虐待防止法施行(養護者、施設等職員、使用者による虐待)
→令和3年4月1日～令和4年3月31日までの1年間における養護者、施設職員等による虐待の状況について、都道府県経由で調査を実施。

	養護者による 障害者虐待	障害者福祉施設従事者等 による障害者虐待	使用者による障害者虐待		
			(参考)都道府県労働局の対応		
市区町村等への 相談・通報件数	7,337件 (6,556件)	3,208件 (2,865件)	1,230件 (1,277件)	虐待が 認められた 事業所数	392事業所 (401事業所)
市区町村等による 虐待判断件数	1,994件 (1,768件)	699件 (632件)			
被虐待者数	2,004人 (1,775人)	956人 (890人)			被虐待者数

【調査結果(全体像)】

(注1) 上記は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までに虐待と判断された事例を集計したもの。

カッコ内については、前回調査(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)のもの。

(注2) 都道府県労働局の対応については、令和元年8月28日雇用環境・均等局総務課労働紛争処理業務室のデータを引用。(「虐待判断件数」は「虐待が認められた事業所数」と同義。)

放課後デイサービス、制度開始から10年 事故4100件…9割負傷・死亡8件

2021年11月4日

読売新聞オンライン

- 調査は昨年11～12月、運営事業所の指定権限がある全都道府県や政令市など計108自治体を実施。死亡・負傷・行方不明の有無を回答した96自治体分を集計した。東京都については、都から権限を移譲された荒川区など4区は回答したが、都は「非公表」だった。
- 昨年10月末までの事故総数は計4097件で、うち打撲などの負傷が3742件、死亡は8件、散歩中などの一時的な不明は347件。資料の保存期間の経過などの理由から全体の94%が17年度以降だった。
- 死亡は、愛知県の3人、宮城、福島、福井、山口4県と大阪府の各1人。ため池や川で溺死したり、食事をのどに詰まらせて亡くなったりした3人については、事業所の対応に問題があったとして自治体が行行政処分や指導を行った。
- 放課後デイは身体、知的、発達に障害がある小中高生らが利用。社会福祉法人や企業などが運営し、生活能力の向上を目指す活動を行う。利用者は約30万2000人、事業所は約1万9000か所に上る。



『開けられたパンドラの箱』（2018）

月刊『創』編集部編

- 「私は意思疎通が取れない人間を安楽死させるべきだと考えております。私の考える『意思疎通がとれる』とは、正確に自己紹介（名前・年齢・住所）を示すことです。世界人権宣言第一条には『すべての人間は生まれながらにして平等であり、かつ尊厳と権利について平等である。人間は理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない』とあります。まさに仰る通りですが、世界には“理性と良心”とを授けられていない人間がいます。人の心を失っている人間を私は心失者と呼びます。」（31頁）
- 「私の考えるおおまかな幸せとは、“お金”と“時間”です。人生はすべてに金が必要ですし、人間の命は、時間であり、命には限りがあります。重度・重複障害者を養うことは、莫大なお金と時間が奪われます。」（31頁）

生産性とは

- ・ 杉田水脈衆議院議員は、『新潮45』（2018年8月号）に、「LGBTのために税金を使うことに賛同が得られるものでしょうか。彼ら彼女らは子どもを作らない、つまり生産性がないのです」と寄稿している。
- ・ 2020年7月、ソーシャルメディアで出会ったALS（筋萎縮性側索硬化症）の患者から金銭を受け取り、患者を死なせた医師二人が、嘱託殺人罪で逮捕された。被告の一人は、高齢者を入院させるのは、「姥捨て山」であり「寝たきりの高齢者などへの医療は社会資源の無駄」等の主張をしていたという。これらは、人間の価値や生命を生産性や社会的コストの物差しで選別する思想である。

優生思想・差別・偏見の曖昧さ

- 人間の価値や生命を生産性や社会的コストの物差しで選別する思想である。
- しかし、このような考えに対して、「それは間違っている」と私たちは本当に主張できているのだろうか。
- 自らも社会の空気も、程度の差こそあれ、生産性や社会的コストという物差しの影響を受けていることは薄々わかっている、このことを深く洞察することを「しかたがない」として回避しているような不全能感を打ち消すことができない。

私のなかに、私の組織に、
「内なる差別」はないのか？

障がいのある人、高齢者、患者を対等の
人間としてとらえているのか？

「効率・生産」に重きをおき、
「共生」を後回しにしてはいないか？
私たちが考える「生産」とは何か？

優生思想 V S 「この子らを世の光に」

・「この子らはどんな重い障害をもっているけれども、だれと取り替えることもできない個性的な自己実現をしているものである。人間と生まれて、その人なりに人間となっていくのである。その自己実現こそが創造であり、生産である。私たちの願いは、重症な障害をもったこの子たちも立派な生産者であるということ、認め合える社会をつくろうということである。『この子らに世の光を』あててやろうという哀れみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよ磨きをかけて輝かそうというのである。

『この子らを世の光に』である。この子らが、生まれながらにして持っている人格発達の権利を徹底的に保障せねばならぬということなのである」。


『糸賀一雄著作集Ⅱ』

・「重症の心身障害児たちは、実は生産社会に生産人として復帰することはできないでしょうが、人間と生まれて人間となるという自己実現をするということ、内と外との関係においてその人間の生産性を認めることに他ならないということです。」

『糸賀一雄著作集Ⅲ』

虐待や権利侵害に対しての表明 どうして？（当事者からの声）

- どうして、かつてに私のことをきめるの？
- どうして、子どものようにあつかうの？
- どうして、話をちゃんと聞いてくれないの？
- どうして、上から目線になるの？
- どうして、この仕事を選んだの？



意思を
尊重して
ほしい！

- 「ぼくたち、わたしたちは、職員がすること、思うことを見てどうするか考える。職員はちゃんとしてほしい、混乱するようなことはしないでほしい」『人間としての尊厳・5章（4）』

（1985）スウェーデン社会保険庁

障害者の権利に関する条約 (2014年2月19日効力)

第17条：「全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、
その心身がそのままの状態尊重される権利を有する。」
(integrity = 不可侵性)



人としてあたり前の生活の保障



「私たちのことを私たちぬきで決めないで！」
(Nothing about us, without us!)

意思決定（支援）・人生の主人公

障がいのある人の人権尊重への志向

施設や病院の社会化・開放化⇒地域移行・地域定着
地域で当たり前暮らしことの保障
虐待、差別や偏見を許さない意識の啓発
意思決定支援の具体的な内容や支援方法等の明確化

改正障害者基本法（2011）
障害者虐待防止法（2012）
障害者総合支援法（2013）
障害者の権利条約（2014）
意思決定ガイドライン（2015）
障害者差別解消法（2016）

ノーマライゼーション



ソーシャル・インクルージョン

障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（2012・10・1）

- 障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加にとって障害者に対する虐待を防止することが極めて重要であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。 ⇒ 人間の尊厳を護る

「障害者および虐待」の定義

- 「身体障害、知的障害、精神障害その他心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」障害者手帳を取得していない場合も含まれる。18歳未満の者も含まれる。
- 障害者虐待（第2条第2項）：
 - 養護者による障害者虐待
 - 障害者福祉施設従事者等による障害者虐待
 - 使用者による障害者虐待
- 虐待行為の禁止（第3条）：「何人も、障害者に対し、虐待をしてはならない。」

障害者虐待の種類

- ①身体的虐待：障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること。
- ②性的虐待：障害者にわいせつな行為をすること又は障害者をしてわいせつな行為をさせること。
- ③心理的虐待：障害者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応又は不当な差別的な言動その他の障害者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。
- ④ 放棄・放任：障害者を衰弱させるような著しい減食又は長時間の放置、他の利用者による①から③までに掲げる行為と同様の行為の放置その他の障害者を養護すべき職務上の義務を著しく怠ること。
- ⑤ 経済的虐待：障害者の財産を不当に処分することその他障害者から不当に財産上の利益を得ること。

区 分	内 容 と 具 体 例
身体的虐待	暴力によって身体に傷やあざ、痛みを与える行為。身体を縛り付けたり、過剰な投薬によって動きを抑制する行為。 【具体的な例】 ・平手打ちする ・殴る ・蹴る ・壁に叩きつける ・つねる ・無理やりに食べ物や飲み物を口にさせる ・やけど ・打撲させる ・身体拘束（柱やベッドに縛り付ける、医療的必要性に基づかない投薬によって動きを抑制する、ミトンやつなぎ服を着せる、部屋に閉じ込める、施設側の管理の都合で睡眠薬等を服用させる等）
性的虐待	性的な行為やその強要（表面上は同意しているように見えても、本心からの同意かどうかを見極める必要がある） 【具体的な例】 ・性行 ・性器への接触 ・性的行為を強要する ・裸にする ・キスする ・本人の前でわいせつな言葉を発する ・わいせつな映像を見せる ・更衣やトイレ等の場面をのぞいたり映像や動画を撮影する
心理的虐待	脅し、侮辱などの言葉や態度、無視、嫌がらせ等によって精神的苦痛を与えること。 【具体的な例】 ・「バカ」「あほ」等高齢者を侮辱する言葉を浴びせる ・怒鳴る ・ののしる ・悪口を言う ・仲間に入れない ・子ども扱いする ・人格をおとしめるような扱いをする ・話しているのに意図的に無視する
放棄・放置	食事や排泄、入浴、洗濯等身の世話や介助をしない、必要な福祉サービスや医療や教育を受けさせない等によって障害者の生活環境や身体・精神的状態を悪化、又は不当に保持しないこと。 【具体的な例】 ・食事や水分を十分に与えない ・食事の著しい偏りによって栄養状態が悪化・あまり入浴させない ・汚れた服を着させ続ける ・排泄の介助をしない ・髪や爪が伸び放題 ・室内の掃除をしない・劣悪な住環境の中で生活させる ・病気やけがをしても受診させない・ ・必要な福祉サービスを受けさせない・同居人による身体的虐待や性的虐待、心理的虐待を放置する
経済的虐待	本人の同意なしに（だます等して）財産や年金、賃金を使ったり勝手に運用し、本人が希望する金銭の使用を理由なく制限すること。 【具体的な例】 ・年金や賃金を渡さない ・本人の同意なしに財産や預貯金分を処分・運用する ・日常生活に必要な金銭を渡さない・使わせない ・本人の同意なしに年金等を管理して渡さない。

虐待：「むごい扱い」

- Abuse：誤用、濫用、ののしる、悪態をつく
- 腕力、知力、社会力、武力、権力を持つ者がその力を誤用したために起こる事柄をさす
- 保護・監督すべき権限や責務のある立場の人から、その力を濫用した不適切な対応
- 愛される存在の人から、専門的支援を提供する人から受ける「むごい扱い」
- 児童虐待、暴力、いじめ、体罰、ドメスティックバイオレンス、ハラスメント
- 自然破壊、動物虐待 ⇒ 声なき声を聴く

なぜ虐待は許されないのか、以下のことを 自分がやられたら、どんな気持ち？

- ・ 例 1 : 自分のお金が、無断で使われた
- ・ 例 2 : 決まりを守らなかったことで顔を殴られた
- ・ 例 3 : トイレの入り口がカーテン
- ・ 例 4 : みんなの前で罵倒された
- ・ 例 5 : 風邪で寝込んでいたのに周りの人が誰も面倒をみてくれなかった
- ・ 例 6 : 何かを伝えようとするのに、無視された

誰でもやられたら肉体的、精神的な苦痛を感じる。虐待は、その極端な例である。**心の傷は治らない。**

桑田真澄、早稲田大学大学院修士論文、体罰調査 体罰教員6.751人（2012年度調査）

- プロ野球選手と東京六大学野球部員の550名調査
 - 体罰を指導者から受けた：中学45%、高校46%
 - 体罰を先輩から受けた：中学36%、高校51%
 - 体罰は必要、ときとして必要：83%
-
- 私は、体罰は必要ないと考えています。「絶対に仕返しをされない」という上下関係の構図で起きるのが体罰です。
 - 体罰を受けた子は、「何をしたら殴られないで済むだろう」という思考に陥ります。

暴力の原因って何か

- 怒りがたまっていくのが暴力の原因
- ストレスがたまっ のが暴力の原因
- 管理運営の問題

怒りやストレスがたまっても、

暴力を振るわない人はたくさんいる

「暴力をふるっていい」と思っている

ことが暴力の原因

虐待行為と刑法

虐待行為は、刑事罰の対象になる場合がある（⇒すべきだ）

虐待行為の類型	該当する刑法の例
① 身体的虐待	刑法第199条殺人罪、第204条傷害罪、第208条暴行罪、第220条逮捕監禁罪
② 性的虐待	刑法第176条強制わいせつ罪、第177条強姦罪、第178条準強制わいせつ罪、準強姦罪
③ 心理的虐待	刑法第222条脅迫罪、第223条強要罪、第230条名誉毀損罪、第231条侮辱罪
④ 放棄・放置	刑法第218条保護責任者遺棄罪
⑤ 経済的虐待	刑法第235条窃盗罪、第246条詐欺罪、第249条恐喝罪、第252条横領罪

これまでの虐待事案においても、虐待した施設等の職員が警察によって逮捕送検された事案が複数起きています。

抑制・拘束は「人間の尊厳」を侵害

- 障害の有無に関わらず**全ての人には自分自身の意思で自由に行動し生活する権利**がある。一方で、身体拘束とは、障害者の意思にかかわらず、その人の身体的・物理的な自由を奪い、行動を抑制または制限し、障害者の能力や権利を奪うことにつながる行為である。
- 障害者虐待防止法では、「正当な理由なく障害者の身体を拘束すること」は身体的虐待に該当する行為とされている。身体拘束は、**関節の拘縮、筋力や心肺機能等、身体的能力の低下、褥瘡の発生等の身体的弊害、意思に反して行動を抑制されることによる不安や怒り、あきらめ、屈辱、苦痛といった精神的な弊害**をもたらす。
- このことは、**家族にも大きな精神的苦痛**となるとともに、**職員等は問題解決の手段として安易に身体拘束に頼る**ようになり、モチベーションや支援技術の低下を招く等の悪循環を引き起こす。そのため、身体拘束の廃止は、本人の尊厳を回復し、支援の質が低下する悪循環を止める、虐待防止において欠くことのできない取組といえる。
- 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害者支援施設等の人員、設備及び運営に関する基準」等には、**緊急やむを得ない場合**を除き身体拘束等を行ってはならないとされている。

緊急やむを得ない場合

- **以下の全てを満たすことが必要。**
- ① 切迫性 利用者本人又は他の利用者等の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高いことが要件となる。
- ② 非代替性 身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がないことが要件となる。
- ③ 一時性 身体拘束その他の行動制限が一時的であることが要件となる。
- さらに、やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録しなければならないとされている。

心理的虐待（以下の言動は瞬時に行われ、
周りの職員が気づいている場合が多い）

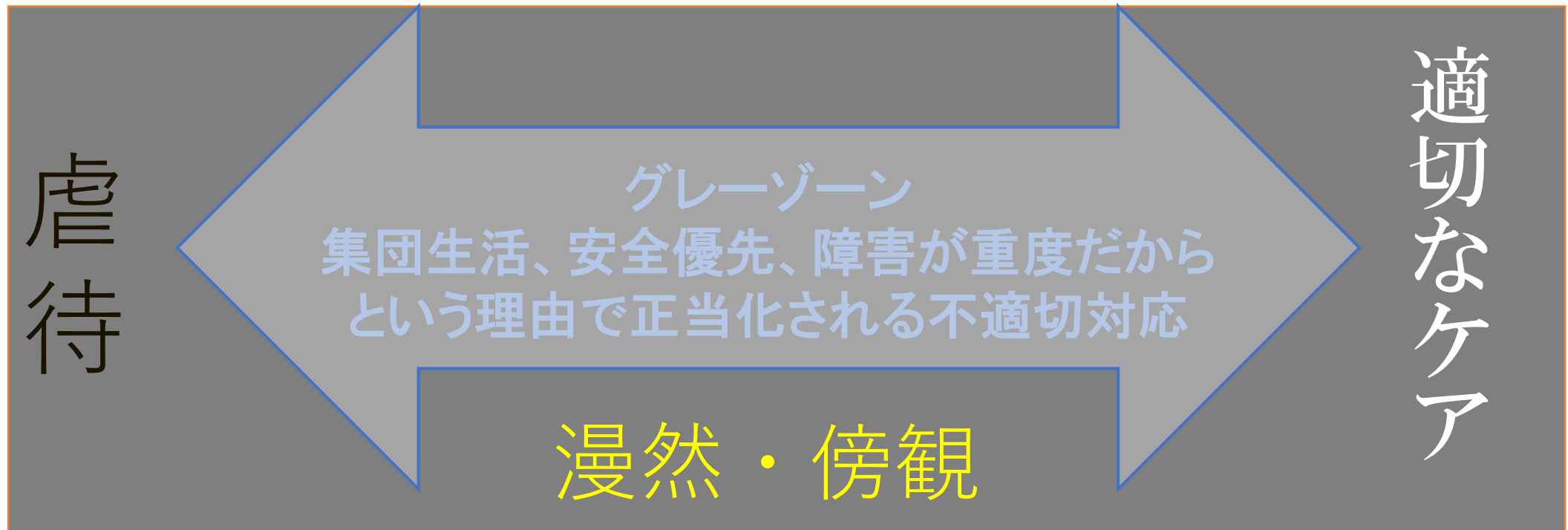
- 乱暴な言葉遣い：怒鳴る、罵る
- 罰として「外出させない」「食事を抜く」などの脅迫
- 子ども扱いする
- 他の利用者と差別的な取り扱い
- 利用者の要求を故意に無視
- **威圧的な態度**
- **冷たい、侮辱した視線**
- **舌打ち、ためいき、目線を合わせてニヤツとする**

虐待につながる関わり

- 障がい特性を理解しないまま、衝動行動の表面だけを捉えて、安易に自由の制限を行うと虐待に当たり得ることになる。
- 漫然：はっきりした目的や意識もなく、経験的、その場しのぎで支援を行うこと。
- 施設のベテラン職員 A が利用者に暴言や威圧的な態度が常態化していた。新人職員 B が何度も目撃したが適切な防止措置を取らなかった。
- 傍観：傍観者は虐待者。放棄・放任（ネグレクト）

虐待と不適切ケア（グレーゾーン）

- ・ 不適切ケアに気づくこと（個人・チーム・組織）
- ・ 不適切なケアを意識し、説明責任を果たすこと
- ・ 法律の定義に当てはまる虐待の客観的有無が重要



権利を侵害しないことは、権利を擁護することではない

- 利用者のAさんは、お風呂が大嫌い。お風呂の時間になると、居室に閉じこもったり、暴れたり、自傷したりする。今日で5日も入っていないので、冬とはいえ衛生状態が悪くなり、ネグレクトとみなされてしまう。
- 利用者Bさんは、向精神薬を服用しているが、薬が大嫌い。食事後に水で服用することを拒むので、ジュースに混ぜて、薬でないことをごまかして服用させている。
- 権利侵害に当たる支援
- 権利侵害をしない（ように見える）支援
- 権利擁護の支援

「病気・障害・認知症」ではなく、同じ人間としての 「生きる苦悩」に目を向けること

- バザーリア：「**病気ではなく、苦悩が存在する**のです。その苦悩に新たな解決を見出すことが重要なのです。・・・**彼と私が、彼の<病気>ではなく、彼の苦悩の問題に共同してかかわるとき、彼と私との関係、彼と他者との関係も変化してきます。**そこから抑圧への願望もなくなり、現実の問題が明るみに出てきます。この問題は自らの問題であるばかりではなく、家族の問題でもあり、あらゆる他者の問題でもあるのです。」

出典：ジル・シュミット『自由こそ治療だ』社会評論社、p69)

パーソンセンタードネス入門（シドニー大学障害学センター）

監訳：東洋大学福祉社会開発研究センター障がいユニット

- ・パーソンセンタードネス（本人中心主義）とは、一人ひとりの価値を認め、どの人にも尊敬と尊厳を示すこと
- ・支援者は、本人の声を深く傾聴し、共感することを通じて、他者との関係を深める
- ・すべての人が良い人生を送れるように努める
- ・常に本人を真ん中において、本人の力、強み、可能性を信じ、その力を引き出す
- ・障がいのある人の意思決定、自己実現の支援は、支援者の仕事を通して支援者自らの自己実現と重なる

皆さんが選んだ仕事の意味・意義

- ・ヒューマンサービスは、人間が人間を支えていく
- ・ヒューマンサービスは、人格を通して**価値・倫理**を基盤とした知識・技術が提供される
- ・価値・倫理を基盤にした支援を個人・チーム・組織レベルで説明できるか

家族に子どもにこの仕事の意義を伝えられるか
利用者とともに社会を変えられるか

指導 ⇒ 援助 ⇒ 支援

- 支援を英語では「サポートを行う」
- 支援者は「サポーター」、サッカーでは12番目の選手、しかし中心はピッチに立つ選手、パワーを信じている
- ホームを創る、アウェーをつくるな！
- 本質的な支援をしていれば、虐待は起こらない
- 利用者の権利擁護を推進するために、行政の縦割りや事業所を超えて、地域の中で利用者の声を具現化していくことが、社会変革につながる
- 今日集まっている皆さんは、かけがえのない利用者の尊厳、生命、生活を護っていく要（かなめ）であり「しかたがない」を言わない、社会を変える支援者となる。